

# 東三河 狭山ニュース

2015.2.15 No.6

「狭山事件の再審を求める東三河の会」

代表 山崎和男

090-5614-3244



## 狭山豊橋上映会、400人が感動！



みなさん、こんにちは。

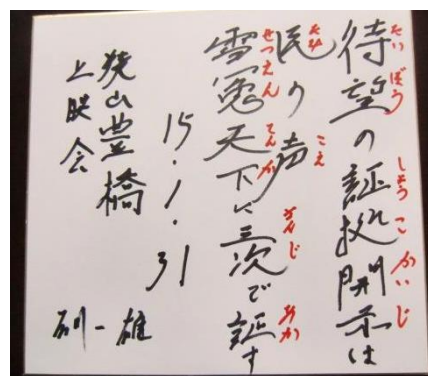
1月31日「狭山事件の再審を！豊橋上映会」は、豊橋市民文化会館大ホールをほぼ満席にする400名が参加し盛況でした。この日のためにおよそ100名の方たちがチケットを販売してくださいました。チケットを売ることは大変だったと思いますが、多くのみなさんの地道な取り組みが、すばらしい結果につながりました。狭山事件の再審を求める取り組みは、東三河において確かな一歩を踏み出したと思います。

参加者の感想には、「早智子さんの変わらぬひとすじな生き方に感動した」「こういうアットホームな集会は初めて」など、感動や共感の音が多数聞かれました。

獄中で短歌を作り始めた石川さん。この日も豊橋上映会に寄せた短歌を色紙にしたためて紹介してくださいました。「待望の証拠開示は民の声 雪冤天下に三次で証（あか）す」

映画を見ることで、狭山事件が人生をめちゃくちゃにする冤罪であること、それでも冤罪に負けずに人生を前向きに生きる石川さん夫妻のを知ることができました。石川さん夫妻の生の姿を見ることによって、映画で感じる以上に支え合う夫妻の強さや優しさ、一途な生き方に触れることができ、会場は大きな共感や感動に包まれました。石川さん夫妻、金監督、谷川さん、狭山映画を取り巻く人たちは本当に魅力的な人達でした。参加者は自然な気持ちで「この人たちを応援しよう」と思わずにはいられなかったと思います。

第一次分として2月2日には145名の署名を届けました。みなさん、私たちとともに石川さんの無罪のために再審を求めていきましょう。



無実の石川さんは無罪に！あなたのお力をお貸してください！

○会員や協力会員（アットホームな会です）募集中！

○狭山事件の勉強会もします。非会員の方も気軽にどうぞ。

『SAYAMA みえない手錠をはずすまで』  
上映会&ライブ&トーク  
アンケート 集計(部分)  
狭山事件について知りたいことや思い、  
石川さん・早智子さんへのメッセージ

- ・また豊橋・豊川に来てください。
- ・事件が日常会話になっていることの悲しみ。一生とは一度の人生。「無罪になったら何を話すのかね」という場面に「そうだよな」と。無罪になってからの日常会話でおふたりが笑顔でいるのを望みます。
- ・検察はすべての証拠を開示して、裁判所においては勇気をもって再審を開始してもらいたい。石川さん夫妻にはぜひケニア旅行に行って心からアフリカの動物たちと出会って楽しんでもらいたい。石川さんの今回の服は明るい青のネクタイをしてなかなかおしゃれだった。石川さんは几帳面でとても生真面目な人だと思う。夫妻でぜひ元気に長生きしてもらいたい。
- ・何もできないけれど署名集めます！！
- ・多くの人と関わっているということは幸せなことだと思います。たくさんの方に愛を包まれている石川さんの無罪が確定するように私も応援します。32年間の獄中生活から社会復帰されるのも大変な苦労だったと思います。
- ・石川さん、早智子さん、どんなことでもくじけず、むじつをうたえつづけてください。私ははったつしょうがい、せいしんしょうがいをかかえています。私は私らしく楽しく毎日生きている。生きていられるだけでも申しあげます。ときにはつらいこともあるかがんばっています。
- ・辛い過去があったにもかかわらず、しっかり前を向いて一生懸命歩んでいるんだと感じました。2人を尊敬します。これから応援し続けます！！
- ・お二人の話に感動し、生きる活力をもらいました。
- ・よくそこれまでがんばってこられました。本当に脱帽です。これからも仲良くがんばってください。応援しています。すばらしい、お似合いの夫婦ですね。
- ・映画の中の石川さんはスティックでスポーツマンでかっこいいと思います。書かれる字もきれいだし、スピーチも素晴らしいです。早智子さんは映画より生のお姿の方が美しいと思いました。

狭山事件のえん罪訴え  
豊橋で石川夫妻語る「今」の思い  
(東愛知新聞2015. 2. 1)



無罪を訴える活動について話す一雄さん(中)  
＝豊橋市民文化会館で

埼玉県狭山市で1963(昭和38)年5月、女子高校生が殺害された「狭山事件」で服役し、えん罪を訴えている石川一雄さんと妻・早智子さんが31日、豊橋市民文化会館でトークショーを行った。「狭山事件の再審を求める東三河の会」(山崎和男代表)が開催した。東愛知新聞社など後援。

一雄さんは無期懲役が確定して服役、仮釈放された現在は、無罪を訴え全国を回り、東京高裁に第3次の再審請求をしている。

この日は、石川さん夫婦の3年間を追ったドキュメンタリー映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」(金聖雄監督)の上映会も開かれた。事件から半世紀、獄中32年、仮釈放から19年、えん罪を訴え続けながら生きる2人の日常に約370人の観客が見入った。

トークショーには金監督も参加し、「2人のそのままの姿を届けたいらどんな証拠よりも無罪の証明にと思った」と映画製作への思いを語った。一方、撮影中「石川さんが時折、無期懲役という判決に引き戻されることがあった」と、一雄さんが背負う影に触れて、えん罪の恐ろしさを訴えた。

狭山事件では今月、一雄さんの弁護団に検察側が保管する物的証拠のリストが開示され、大きな進展を見せた。一雄さんは「無罪判決で終わりではない。差別をなくす活動に生涯かかわっていきたい」と現在の思いを述べた。(飯塚雪)

ホームページ「狭山東三河の会」  
ブログ「狭山おたより日誌」  
にて検索できます。私たちの活動の様子をご覧ください